

平成27年度教育に関する点検・評価の概要

1. 点検・評価の基本的な考え方

趣旨	○目的 効果的な教育行政の推進をはかるとともに、市民への説明責任を果たす ○根拠 地方教育行政の組織及び運営に関する法律	対象	○平成26年度に実施した取組みを対象 ○教育委員会の取組みに加え、関係部課等の取組みも点検・評価
方法	○帯広市教育基本計画の「個別目標」「基本方向」ごとに実施 ○取組みの成果と、課題・今後の方向性の2つの観点から点検・評価	学識経験者の知見の活用	○学識経験者から意見・助言をいただき、点検・評価を行うにあたり客観性を確保するとともに、今後の取組みに向けて活用をはかる

2. 点検・評価の結果

次代を担う人づくり

知識・技能の習得

展開方策	取組みの成果	課題・今後の方向性
子どもの学力・学習意欲を高める教育の推進	○基礎学力定着に向けた地道な取組みの継続により、標準学力検査の目標基準到達観点数の実績値が前年より向上	○基礎学力の定着が十分ではないと考えられるため、学校・家庭・地域が一体となった取組みの充実を図る
個人や社会のニーズに応じた学習活動の推進	○地域でのコミュニティ講座等、幅広く多様な学習機会を提供したため、講座等の参加者数は目標を達成	○多様化する学習要望に幅広く対応するため、新たな講座等の開発に取組む
職業に関する教育・学習活動の推進	○帯広南商業高校において、就職率100%を達成し、検定の3種目以上1級取得率も目標を達成	○帯広南商業高校において、引き続き教養ある豊かな産業人の育成に努める
高度情報化に対応した教育・学習活動の推進	○中学校の教育用コンピュータ機器類の更新により、情報利活用能力向上のための教育環境を整備	○教育用コンピュータ機器類の計画的な更新等を図る

豊かな心の育成

展開方策	取組みの成果	課題・今後の方向性
子どもの社会性の育成	○小中学校、帯広南商業高校で、児童生徒の悩み相談等にきめ細かい対応 ○子ども居場所づくり事業は、小学校26校全校で100%実施	○不登校の原因多様化により、学校復帰が図られないケースが多いため、一人ひとりに応じた教育相談体制の強化に努める ○子どもの居場所づくりでは、コーディネーター不足などによる事業実施回数減少から、参加児童数が減少しているため、担い手の確保・養成を図る
豊かな情操の育成と生きがいづくり	○朝読書等により読書に興味を持つ児童生徒が増え、1人当りの貸出冊数は目標を達成 ○良質な芸術・文化に触れる鑑賞機会を提供し、芸術文化に親しめる環境づくりの実施	○学校図書館の蔵書整備及び運営に係る担い手の確保・専門性向上を図り、より活用しやすい学校図書館づくりを進める ○芸術・文化情報が市民に十分に行き届いていないため、各コミュニティ等を通じた情報発信を検討する

<成果指標の状況>

指標名	H19基準値	H26実績値 H26目標値	H31目標値
標準学力検査の目標基準到達観点数(観点)	26	34 37	42
帯広市教育委員会が開催する講座等の参加者数(人)	22,590	36,753 23,000	23,000
帯広南商業高等学校の就職率(%)	100.0	100.0 100.0	100.0
帯広南商業高等学校における検定の3種目以上1級取得率(%)	46.7	81.5 58.5	75.0



地域でのコミュニティ講座(各校区でイベント等を開催)



帯広南商業高校でのキャリア教育(地域企業の民間人による授業)

<成果指標の状況>

指標名	H19基準値	H26実績値 H26目標値	H31目標値
不登校生徒の復帰率(%)	30.8	24.0 52.5	65.0
子どもの居場所づくり参加児童数(人)	7,575	22,405 28,200	31,100
小学校図書館の児童1人当たり貸出冊数(冊)	9.1	16.8 10.4	11.8
中学校図書館の生徒1人当たり貸出冊数(冊)	1.6	3.9 2.0	2.4
鑑賞事業の入場者数(人)	34,098	24,080 38,000	38,000



子どもの居場所づくり事業(みどりっこクラブ企画「カブラ」)



学校図書ボランティア(読み聞かせの様子)

健やかな体づくり

展開方策	取組みの成果	課題・今後の方向性
健やかな体を育むスポーツ活動等の推進	○各種スポーツ大会、教室・講習会が順調に実施されたことで、参加者数は目標を達成 ○総合型地域スポーツクラブの設置数は、情報交換や体制づくりを進めた結果、1か所増	○スポーツ少年団登録団員数が微減傾向のため、各家庭に情報提供し、団員増加を図る
食育の推進と学校給食の充実	○「食」に関する知識と「食」を選択する力を習得するための食育を推進し、健全な心と身体を培い、豊かな人間性を育成 ○学校給食においては、関係部署と連携し、地場産野菜を導入	○児童生徒の生活リズム・食生活への関心等に課題があるため、食に関する指導の一層の充実を図る ○地場産野菜の生産・収穫が気候変動に左右されたことで、学校給食における導入率は目標値を下回ったが、引き続き導入拡大に取組む ○学校給食センターの稼働にあわせ、新メニューの導入など給食の質の向上に取組む

<成果指標の状況>

指標名	H19基準値	H26実績値 H26目標値	H31目標値
スポーツ大会、スポーツ教室・講習会の参加者数(人)	35,677	92,135 87,000	87,000
総合型地域スポーツクラブの設置数(か所)	2	4 5	8
学校給食における地場産野菜の導入率(%)	55.7	63.5 68.2	70.0



総合型地域スポーツクラブ(クラブによる体育教室)



食育の取組み(食育指導専門員による出前授業)

人間を尊重し自然と共生する人づくり

展開方策	取組みの成果	課題・今後の方向性
人権・福祉・男女共同参画に関する教育・学習活動の推進	○ユニバーサルデザインに関する講座等を関係部署と連携し、開催機会を拡大したことで、目標を達成 ○男女共同参画に関する講座の開催等による意識啓発を実施	○性別による固定的な役割分担意識が残っているため、男女平等意識の定着・浸透を図る
グローバルに対応した教育・学習活動の推進	○森の交流館・十勝を活動拠点に、在住外国人等のニーズを踏まえ国際交流事業の実施により、事業参加者数が増加 ○指導充実のため、外国語指導講師を全小中学校へ派遣 ○英語指導助手配置等による帯広南商業高校での国際理解の推進	○エリア・ファミリーを考慮した外国語指導講師の学校派遣で、小中学校が連携して外国語指導を行えるよう、派遣体制の充実を図る ○長期休業中に小学生を対象にした「Obihiroサマーイングリッシュ」等を引き続き開催し、外国語への興味・関心を高める
環境に関する教育・学習活動の推進	○小中学校等において社会教育施設等と連携した環境教育の実施に結びつけるため、環境教育プログラム集やホームページで情報を発信	○環境教育プログラム集などで、引き続き環境教育情報を発信し、学校や社会教育施設等が連携した環境教育を推進する

<成果指標の状況>

指標名	H19基準値	H26実績値 H26目標値	H31目標値
UDに関する講座等への参加者数(人)	234 (H17-19平均)	310 284	370
国際理解推進事業・国際交流事業の参加者数(人)	8,465 (H17-19平均)	9,528 8,925	9,350
環境にやさしい活動実践校数(校)	10	28 29	41



帯広南商業高校でのグローバル教育(高校生が小学生に英語授業)



帯広らしい環境教育の取組み(エコバック作り)

ともに学びきずなを育む地域づくり

ふるさとの理解の促進

展開方策	取組みの成果	課題・今後の方向性
子どものふるさと教育の推進	○児童生徒がふるさとへの理解を深めるための「ふるさと教育」を実施 ○百年記念館出前講座により、郷土の自然を学ぶ機会を提供	○小中学校で行っている体験活動等のプログラムの見直しなどを検討する ○百年記念館での、教材更新等に取組む
地域に関する学習活動の推進	○地域に根ざした親しみやすいテーマを設け、幅広く多様な講座等を開催したことにより、地域について学ぶ講座等への参加者は目標を達成 ○アイヌ民族文化情報センター（リウカ）での取組みなどにより、アイヌ民族の歴史・文化への理解を深める取組みを推進	○市民大学講座、百年記念館博物館講座などを引き続き行い、地域への理解を深める機会を提供する ○新規受講者を呼び込むため、学習活動のより効果的な周知に取組む

きずなづくり・まちづくり

展開方策	取組みの成果	課題・今後の方向性
まちづくりへの参画を促進する教育・学習活動の推進	○青少年リーダー養成事業のプログラムに工夫を加えたことにより参加者は目標を達成 ○百年記念館等での講座等受講者によるボランティア活動への参加が定着したことで、学習成果の活用事例数は目標を達成	○青少年育成団体スタッフの担い手育成・発掘のため、活動内容を積極的に周知し、学校等の協力を得ながら人材確保に努める ○社会教育施設において、講座等の受講後のボランティア活動に繋がるように、活動の場を今後も提供する
にぎわいや交流を促進する文化・スポーツの振興	○市民芸術祭では、実行委員会との連携により、広く参加を促したことで、発表・活動への場の参加団体数は目標を達成 ○各種スポーツ大会の観客数は、日本クラブユースサッカー大会などの開催により目標を達成 ○スポーツ合宿団体数は、地域を挙げて受け入れに取組んだことで目標を達成	○芸術文化に関わる活動団体の活動規模を一定程度維持し、活動成果の発表を行うことができるよう、合同練習・発表などの情報交換・収集ができる機会について検討する

基本目標を実現するための基盤づくり

学校・家庭・地域の連携

展開方策	取組みの成果	課題・今後の方向性
開かれた学校づくり	○小中学校において学校評議員制度を活用し、開かれた学校づくりへ向けた一層の充実を図った	○学校評議員研修会等の内容を充実させ、各学校の評議員の交流や情報交換の機会を設ける
家庭教育への支援	○子育て支援センターでの講座を増やしたことなどにより、子ども1人当りのセンター等利用回数は目標を達成 ○家庭教育学級により家庭の教育力を向上 ○動物園等で、親子での学習機会を提供	○子育てメールの利便性について、母子健康手帳交付時などの機会を利用して周知を図り、利用増につなげる
家庭や地域による教育支援の推進	○地域ぐるみで子どもを育てることの重要性が理解されてきていることなどから、学校支援ボランティアを活用した学校数は目標を達成	○学校支援地域本部のボランティア等の人材確保と高齢化等が課題であるため、人材発掘、活動内容の充実にも努める

<成果指標の状況>

指標名	H19基準値	H26実績値 H26目標値	H31目標値
地域について学ぶ講座等への参加者数(人)	4,053	5,598 4,000	4,000



小中学校でのふるさと教育 アイヌ民族文化情報センター（リウカでの解説）
（小4 郷土地験学習）

<成果指標の状況>

指標名	H19基準値	H26実績値 H26目標値	H31目標値
青少年リーダー養成事業参加者数(人)	208	365 235	260
学習成果の活用事例数(件)	1 (H20)	9 5	10
発表・活動の場への参加団体数(団体)	56	87 60	65
各種スポーツ大会の観客数(万人)	16.0	22.8 20.8	20.8
スポーツ合宿団体数(団体)	150 (H20)	214 200	200



ボランティア養成講座受講者の活躍
（博物館ボランティアによる展示解説）
市民芸術祭の開催
（第33回おびひろ市民芸術祭）

<成果指標の状況>

指標名	H19基準値	H26実績値 H26目標値	H31目標値
子ども1人当たりの子育て支援センター等の利用回数(回)	10.2	17.0 11.3	12.0
子育てメール通信の利用率(%)	23.8 (H20)	40.9 43.5	60.0
学校支援ボランティアを活用した学校数(校)	2	40 20	40



学校支援地域本部事業
（教科の学習サポート）
（学校・地域連携事業）

教育を支える人材の育成

展開方策	取組みの成果	課題・今後の方向性
教員の人間力・指導力の向上	○教員研修や公開研究会の充実により、教職員1人当たりの研修受講回数は、目標を達成 ○21世紀教師塾等により、教員の資質向上に努めた	○教員の指導力の向上を図るため、ニーズに応じた研修の場を確保する ○クラウド型サービシステムによる教材の効果的活用により、指導力の向上に努める
地域の人材の発掘・育成・活用	○ホームページで芸術・文化活動を紹介する団体数は、積極的なPRにより、目標を達成 ○ほっとドリームプロジェクト（スピードスケート競技）により、競技力の向上や底辺の拡大の地元音楽活動家による「虹コン」を開催	○地域の指導者に登録されている人材の活用と周知を図るとともに、新たな人材発掘に努め、新規登録者増に取組む

教育環境の充実

展開方策	取組みの成果	課題・今後の方向性
学校教育の環境整備	○学校給食センターを建設 ○小中学校校舎の耐震化率は100%となっており、H31目標値を既に達成	○学校施設の長寿命化計画策定に向けて調査・検討を進める ○老朽化が深刻な学校施設の抜本的な改善を検討する
社会教育の環境整備	○図書館での企画展示、動物園での展示動物の充実、百年記念館での常設展示室のパネル更新、市民文化ホールでの舞台照明修繕などを実施 ○新たな総合体育館建設に向けた基本計画を策定	○図書館での市民1人当たりの図書等の貸出点数を増やすため、今後もPRや多様な講座・講演会を開催する ○社会教育施設の老朽化に対応するため、計画的な修繕や更新に努める ○新たな総合体育館の整備は、PFI方式により推進
保育・体験活動の環境整備	○児童会館では、科学展示室のリニューアル等により、入館者数が目標を達成	○「帯広市子ども・子育て支援事業計画」に基づき、児童保育センターの整備・耐震化等を進める

教育機会の確保

展開方策	取組みの成果	課題・今後の方向性
就学・進学への支援	○川西地区及び清川地区のスクールバスを児童生徒の増加に対応 ○就学援助費の支給による支援 ○高等学校への進学機会の確保のため貸付等を実施	○家庭の経済的負担を軽減するための就学援助費の支給等を継続する ○高等学校の間の確保を図るための情報収集や陳情活動を継続する
健やかな発達の支援	○特別な支援を必要とする子どものニーズを把握しつつ、保護者の意見等を総合的に勘案しながら特別支援学級の設置を進めたことから、設置数は目標を達成 ○特別支援教育補助員の増員等により特別支援教育を充実	○特別な支援を必要とする児童生徒のニーズは多様化していることから、適切な支援を通じて必要な教育・指導を行うため、多様な柔軟な仕組みや環境整備など、教育環境の充実にも努める

よりよい教育のためのしくみづくり

展開方策	取組みの成果	課題・今後の方向性
魅力ある学校づくりの推進	○絆を育む学校づくり支援事業により、地域との連携深化や学力、体力等の向上等に効果的な事業を展開	○教育課程との関連や継続性を考慮しながら、これまで以上に地域と連携した特色ある学校の取組みを進める
学校教育のしくみの工夫改善	○「帯広市エリア・ファミリー構想」により、全ての中学校区において幼保・小・中の学校種間の相互連携を推進 ○「おびひろっ子」を育む9年教育プログラムのリーフレット配布による市民周知	○「帯広市エリア・ファミリー構想」を浸透させ、9年間を見通した小中連携の実効性ある方策を積み重ねていく
社会教育施設の利用の促進	○図書館等の入場者数が増え、社会教育施設の総利用者数は目標を達成 ○明治北海道十勝オーバル等の利用が伸びており、スポーツ施設の利用者数は目標を達成	○文化施設の利用者数が目標値を下回ったことは、団体の小規模化の影響によるため、個々の団体の活動規模を一定程度確保するための取組みを検討する
地域の実情に応じた教育行政の推進	○教育懇談会を開催し、市民と教育に関して意見交換を実施	○教育関係団体等との懇談会の開催を検討する

<成果指標の状況>

指標名	H19基準値	H26実績値 H26目標値	H31目標値
教職員1人当たりの研修受講回数(回)	2.2	3.1 2.6	3.0
地域の指導者の登録者数(人)	138	122 165	190
ホームページで芸術・文化活動を紹介する文化団体数(団体)	260	268 267	272



教員の研修
（夏季教員研修「食育講座」）
ほっとドリームプロジェクト
（スケートキングダムの様子）

<成果指標の状況>

指標名	H19基準値	H26実績値 H26目標値	H31目標値
小・中学校校舎の耐震化率(%)	46.5	100.0 74.1	100.0
市民1人当たりの図書等の貸出点数(点)	5.4	5.7 6.2	7.0
児童会館の入館者数(万人) (H17-19平均)	10.9	14.5 11.6	12.0



子どもの見守り活動
（花園安心安全見守り隊）
ブリーディングローンを活用した展示動物の充実
（アメリカビーバー）

<成果指標の状況>

指標名	H19基準値	H26実績値 H26目標値	H31目標値
特別支援学級の設置数(学級)	38	72 59	59



特別支援教育の充実
（特別支援学級での授業）

<成果指標の状況>

指標名	H19基準値	H26実績値 H26目標値	H31目標値
社会教育施設の総利用者数(万人)	95.2	100.5 95.2	95.2
文化施設の利用者数(万人)	54.8	54.3 60.0	60.0
スポーツ施設の利用者数(万人)	114.8	136.5 128.6	128.6



おびひろっ子を育む
9年教育プログラム



4館連携事業
（よりどりみどりがおかフェスタ!）